

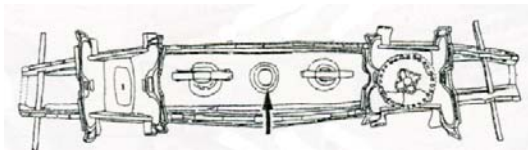


船形埴輪の真ん中には何があったの？ ～ナゾを解くカギは奈良の古墳に…！～

はにわ館の「顔」でもある宝塚1号墳から出土した船形埴輪・・・これまでも、はにわ通信でご紹介してきましたが、今回は、船形埴輪の「失われたパーツ」についてご紹介します。

この船形埴輪は、見つかった時はバラバラでしたが、組み立ててみるとほとんどのパーツは失われておらず、ほぼ当時の姿そのままに修復することができました。

埴輪にはたくさんの飾りがたっていますが、船の中央には、飾りをたてるための穴があるだけで、飾りは見つかっていません。ここには、どんな飾りがあったのでしょうか？

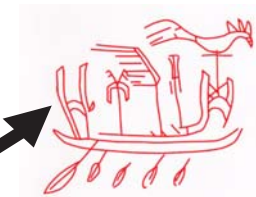
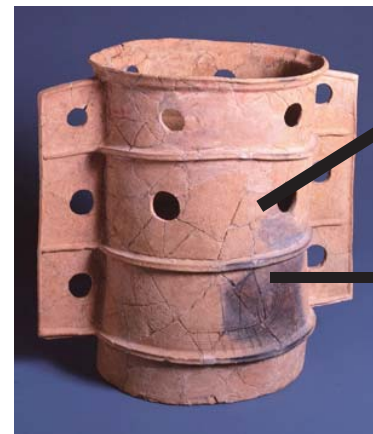


↑宝塚1号墳の船形埴輪を上から見た図（中央に飾りをさす穴有）



飾りがついた船形埴輪は全国でも1つしか見つかっていないので、他の事例と比較することはできません。しかし、この謎を解くカギが、奈良県天理市の東殿塚古墳から出土したヒレ付楕円筒埴輪にあります。

この埴輪には宝塚1号墳と同じように飾りのついた立派な船が描かれています。この船の



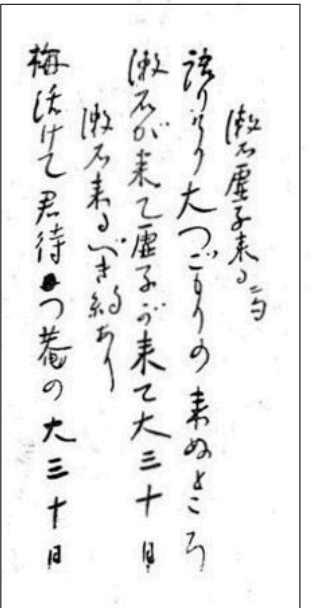
真ん中には風にたなびく旗のようなものがありますね。これと同じようなものが、おそらく宝塚1号墳の船形埴輪にもたっていたのでしょうか。そして木や布など腐りやすいもので作られていたため、長い年月を経てなくなってしまったのだと考えられています。（担当）

←東殿塚古墳のヒレ付楕円筒埴輪（天理市教育委員会蔵）と、船の線刻画

【おおみそかに】

そうせき きよし おおみそか まさおか しき
 漱石が来て虚子が来て大三十日 正岡 子規

おおみそか ねぎし あん
 大晦日に漱石や虚子が、東京根岸の子規庵へ病床にあった子規をたずねてきた喜びを、そのままかざらず一句にしています。この時、正岡子規、夏目漱石ともに28歳、高浜虚子21歳。夏目漱石は子規や虚子のふるさと愛媛松山に、後に「坊ちゃん」の舞台にもなる旧制松山中学校の教師として出むいたばかりで、子規との関係は俳句の指導にとどまらず、自分の結婚話なども相談できるうちとけたものでした。一方、子規は体調に不安をかんじながらも俳句の革新運動に情熱をかたむけており、又、高浜虚子は若いながらも、子規のあとを引きつぐ才能をもった人物で、生涯をつうじて20万句をこえる俳句の作品をのこし、のちに小説家漱石の誕生にも大きくかかわることになります。おそらくこの日、若者たち三人の会話はふるさと松山のこと、俳句のこと、漱石の見合いのことなど、子規にとっては病気のことも忘れさせてくれるほどの、満ちたりてたのしい「大三十日」をすごせたものと思われま。



おおみそかを目前にひかえ、今年の文化財センターは皆さまのおかげをもちまして、来館者10万人をクリアーし、さらに「はにわ館」開館10周年記念特別展は、2千人をこえる皆さまにお越しいただき成功裏に終了することができました。そして、年があげた平成25年3月20日の春分の日には、くいちにちぜんぶん「はにわ館」スペシャルデイとして、これまでの開館記念行事の総まとめになる多彩な催しを予定しています。皆さまにおかれましては、来年も今年に引き続き文化財センターをよろしくお願ひします。（所長）

（写真）漱石虚子来る 二句

語りけり大つごもりの来ぬところ

（本句）

漱石来たるべき約あり

梅活けて君待つ菴の大三十日

「寒山落木 卷四」（明治28年）子規自筆稿

正岡子規（1867～1902）俳人 歌人 愛媛県松山市生

文化財センター はにわ館 & ギャラリー 12月の催し物予定

12月の休館日は、12/3・10・17（月）、12/25（火）、12/28（金）～1/3（木）です。

開館時間は9時～17時です（入館は16時30分まで）。

【はにわ館】 入館料100円（18歳以下無料）

第1展示室 ■常設展「宝塚古墳の謎」



バーコード読み取り
（文化財センター情報）

【ギャラリー】 入場無料

第2G ■第5回こどもハニワ展 12/1（土）～12/8（土） * 毎日10:00～16:00、最終日は正午まで

第1G ■三井高利展 12/4（火）～12/12（水） * 最終日は正午まで

第3G ■まつさか景観絵画展 12/8（土）～12/9（日） * 毎日16:00まで

第3G ■三重のくらしの記念写真パネル展 12/12（水）～1/10（木）

第1G ■梅美展 12/14（金）～12/16（日） * 最終日は15:30まで